2025 年度　授業コード：1230800

授業科目	日本語教育実習					実務家教員担当科目	-
単位	4	履修	選択	開講年次	3	開講時期	通年
担当教員	Kristen Maree Sullivan						
授業概要	日本語教育関連科目の最終段階として、実際に日本語学習者を対象に教壇実習を行い、今までに学んできた理論と実践の統合を目指す。学内実習を行った後、学外実習として日本語教育機関で、日本語教育の実情を見学や教壇実習により学ぶ。また外国人学習者との交流を通して、学習者の母国の文化や、学習者心理、日本語習得過程、異文化適応上の問題などを学ぶ。教壇実習では事前に対象学習者にふさわしい教授が可能になるように、十分な教材分析と指導案作成、教材教具の作成、模擬授業を行う。授業はビデオ録画し、フィードバック・セッションとして、教授者・観察者間で相互評価を行う。 教壇実習の対象となる学習者および受け入れ先機関等の諸事情により、授業スケジュールを一部変更する場合がある。教壇実習は部分的に集中形式で行う予定である。本科目は学外活動を伴う。また、前期の教壇実習については、オンラインツールを使って実習授業を行う場合もある。						
授業形態	対面授業			授業方法	グループワーク、実習		

学生が達成すべき行動目標

標準的レベル	1. 実習先の学習者のニーズを満たす指導案が作成できる。 2. 学習者にとって必要な日本語が教授できる。 3. 日本語教育機関と学習者の多様性が理解でき、それらに適切な対応をとることができる。 4. 仲間と協力して実習先の指導教員や学生に満足してもらえる実習を行うことができる。
理想的レベル	学んだことを、自分のことばで他の人に分かりやすく説明できる。

評価方法・評価割合

評価方法	評価割合（数値）	備考
試験	0	
小テスト	0	
レポート	10%	振り返りレポート
発表（口頭、プレゼンテーション）	30%	教壇実習のできを総合的に評価する。
レポート外の提出物	30%	教案や教材のできを総合的に評価する。
その他	30%	模擬実習・事前準備、授業、フィードバックセッションなどへの積極的参加とする。総合的に評価する。

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング

DP1	-	DP2	-	DP3	-	DP4	○	DP5	○	ナンバリング	T010105J

学習課題（予習・復習）	1 回の目安時間（時間）
教案や教材の作成、模擬授業・教壇実習への準備、模擬授業・教壇実習への振り返り、その他与えられた課題	4

授業計画

2025 年度　授業コード：1230800

第 1 回	オリエンテーション 授業の概要を説明し、履修方法や授業の目的、達成目安、評価の内容と方法を理解する。
第 2 回	教材分析・教案作成１ 教材分析・指導項目分析を行い、教壇実習へ向けた教案を作成する。
第 3 回	教材分析・教案作成２ 教材分析・指導項目分析を行い、教壇実習へ向けた教案を作成する。教材を準備する。
第 4 回	教材分析・教案作成３ 教材分析・指導項目分析を行い、教壇実習へ向けた教案を作成する。教材を準備する。
第 5 回	教え方のヒント 動画教材を用いて、ベテラン教師の教授上の工夫等について確認するとともに、自身の模擬授業・教壇実習に取り入れたいこと、気を付けたいことについて考える。
第 6 回	模擬授業１ 教壇実習に向けて、模擬授業を行う。 授業後、コメントを出し合うフィードバック・セッションを行う。
第 7 回	模擬授業２ 教壇実習に向けて、模擬授業を行う。 授業後、コメントを出し合うフィードバック・セッションを行う。
第 8 回	模擬授業３ 教壇実習に向けて、模擬授業を行う。 授業後、コメントを出し合うフィードバック・セッションを行う。
第 9 回	教壇実習、フィードバック・セッション１ 授業担当者 A・B・C が、外国人を相手に実習授業を行う。 授業後、コメントを出し合うフィードバック・セッションを行う。
第 10 回	教壇実習、フィードバック・セッション２ 授業担当者 A・B・C が、外国人を相手に実習授業を行う。 授業後、コメントを出し合うフィードバック・セッションを行う。
第 11 回	教壇実習、フィードバック・セッション３ 授業担当者 A・B・C が、外国人を相手に実習授業を行う。 授業後、コメントを出し合うフィードバック・セッションを行う。
第 12 回	教壇実習、フィードバック・セッション４ 授業担当者 A・B・C が、外国人を相手に実習授業を行う。 授業後、コメントを出し合うフィードバック・セッションを行う。
第 13 回	教壇実習、フィードバック・セッション５ 授業担当者 A・B・C が、外国人を相手に実習授業を行う。 授業後、コメントを出し合うフィードバック・セッションを行う。
第 14 回	まとめ１ これまでの授業のまとめを行う。（日本語教育哲学）
第 15 回	まとめ２ これまでの授業のまとめを行う。（前期の振り返り）
第 16 回	オリエンテーション 授業の概要を説明し、履修方法や授業の目的、達成目安、評価の内容と方法を理解する。

第 17 回	実習対象機関の日本語教育の概要を知る 教壇実習を行う学校の日本語教育の概要について解説する。
第 18 回	学習者のレベル及びニーズの把握 教壇実習を行う学校の日本語学習者のレベルとニーズについて解説する。
第 19 回	授業見学１ 教壇実習を行う学校で、授業見学を行う（初級クラス）。
第 20 回	授業見学２ 教壇実習を行う学校で、授業見学を行う（初中級クラス）。
第 21 回	教材分析・教案作成１ 教材分析・指導項目分析を行い、教壇実習へ向けた教案を作成する。教材を準備する。
第 22 回	教材分析・教案作成２ 教材分析・指導項目分析を行い、教壇実習へ向けた教案を作成する。教材を準備する。
第 23 回	教壇実習、フィードバック・セッション１ 授業担当者 A が、外国人を相手に実習授業を行う。 授業後、コメントを出し合うフィードバック・セッションを行う。
第 24 回	教壇実習、フィードバック・セッション２ 授業担当者 B が、外国人を相手に実習授業を行う。 授業後、コメントを出し合うフィードバック・セッションを行う。
第 25 回	教壇実習、フィードバック・セッション３ 授業担当者 C が、外国人を相手に実習授業を行う。 授業後、コメントを出し合うフィードバック・セッションを行う。
第 26 回	教壇実習、フィードバック・セッション４ 授業担当者 A が、外国人を相手に実習授業を行う。 授業後、コメントを出し合うフィードバック・セッションを行う。
第 27 回	教壇実習、フィードバック・セッション５ 授業担当者 B が、外国人を相手に実習授業を行う。 授業後、コメントを出し合うフィードバック・セッションを行う。
第 28 回	教壇実習、フィードバック・セッション６ 授業担当者 C が、外国人を相手に実習授業を行う。 授業後、コメントを出し合うフィードバック・セッションを行う。
第 29 回	まとめ１ 全体のフィードバック・セッションを行うとともに、これまでの授業のまとめを行う。(1 年間の振り返り)
第 30 回	まとめ２ これまでの３年間の授業のまとめを行いながら、今後、日本語教育についての学習をどのように継続し、身についた知識やスキルをどのように活用していきたいかについて意見を共有し、話し合う。
テキスト	『教案の作り方』アルク（2016)、『みんなの日本語初級 Ⅰ 第２版 本冊』スリーエーネットワーク(2012)または『みんなの日本語初級 II 第２版 本冊』スリーエーネットワーク(2013)
参考図書・教材／データベース・	『日本語教師のためのアクション・リサーチ』横溝紳一郎（凡人社）(2000) 『成長する教師のための日本語教育ガイドブック 上巻』川口義一・横溝紳一郎（ひつじ書房）

2025 年度　授業コード：1230800

雑誌等の紹介	(2005) 『ドリルの鉄人』横溝紳一郎（アルク・オンデマンド）(1997) 『クラスルーム運営』横溝紳一郎（くろしお出版）　(2011) 『まるごと入門 A1 りかい』国際交流基金(三修社)(2013) 『まるごと入門 A1 かつどう』国際交流基金(三修社)(2013) その他
課題に対するフィードバックの方法	教案、教材、模擬授業、教壇実習に対するフィードバックを適時に対面で、口頭で行う。
学生へのメッセージ・コメント	１．授業以外の時間にも教案・教材作成、模擬授業の実施に取り組む必要がある。 ２．日頃から次の５点に取り組みましょう： ① 既習科目で履修したことをしっかり復習しよう。 ② 自分の日本語を意識化し、疑問に思ったことはすぐ調べよう。 ③ 正しい日本語表現を身につけよう。 ④ 書き順もきちんと復習しておこう。 ⑤ やさしい日本語を使うように意識しよう。 ３．地域日本語教室等でボランティアをすることを勧める。